日本組織培養学会

会員通信

第１５１号

令和 7 年 3 月 6 日

発行者　一般社団法人 日本組織培養学会

編　集　一般社団法人 日本組織培養学会
総務・会員通信担当理事
山本 直樹（藤田医科大学）

〒470-1192
愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪1-98
藤田医科大学 研究推進本部
産官学連携推進センター／
国際再生医療センター
E-mail：naokiy@fujita-hu.ac.jp

目 次

1. 代表理事ご挨拶 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

2. 第 97 回大会（2025 年）のお知らせ ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

3. 第 97 回大会 研究奨励賞申請と発表について ・・・・・・・・・・・・ 3

4. 第 97 回大会 English Presentation Award 申請と発表について ・・ 6

5. 年会費値上げについて（再掲載）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

6. 委員会報告 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
1） 総務委員会
2） 細胞培養基盤教育委員会

１．代表理事ご挨拶

代表理事：藤井 万紀子

この冬，2 月には全国的に厳しい冷え込みが続き，テレビのニュースでも豪雪地帯での雪かきの映像が報道されました。高齢化の進む地域では，住民の方々がスコップで屋根の雪を下す光景が昔と変わらず見られ，雪下ろし中の事故のニュースも度々報道されています。

私自身，アメリカ国立衛生研究所（NIH）でポスドクとして 5 年間勤務していた際，年に一度ほど 30 センチ以上の積雪を経験しました。その際，ワシントン D.C.の官公庁をはじめ，政府機関である NIH も閉鎖され，朝からテレビでは各郡（county）の学校毎の状況が報じられていました。また，雪かきに関する注意喚起として，「15 分作業したら休憩を取ること」「こまめな水分補給をすること」といった呼びかけがテレビを通して繰り返されていたことを思い出します。実際，作業に集中するあまり，体力の消耗に気づかず，体調を崩すこともあるのかもしれません。2 月下旬の三連休が明けると，昨日まで雪が降っていた広島市も一転して春めいた陽気となりました。

2025 年 8 月 21 日-22 日にかけて開催される第 97 回大会の準備が大会長・嶋本顕先生のもとで着々と進められています。詳細につきましては，大会ホームページをご確認ください。本稿では，本大会における研究奨励賞および English Presentation Award についてのご案内をさせていただいております。近年，これらの賞には多くの若手研究者や大学院生の応募があり，発表内容はどれも素晴らしいものとなっております。細胞組織培養の正確性は，再現性の高いデータを得るための基礎であり，真実の探求に不可欠です。データの一つひとつには，手技だけでなく，論文全体の中での意義，解釈を含む深い洞察や考察が込められています。是非，本大会を研究成果の発表と議論の場として活用し，研究者としてのキャリアにつなげていただければと思います。

また本大会が開催される山陽小野田からは，唐戸市場や巌流島のある下関の観光が可能です。さらに，長門温泉，湯田温泉，萩，秋芳洞（大規模で水の量が多い）など，山口県内には多くの観光名所があります。これまで訪れる機会のなかった会員の皆様も，大会後には是非，山口観光もお楽しみください。

昨年度より，細胞培養基盤技術コースがコロナ禍以前のように安定して開催されております。各会場には熟練した講師の先生方が多数参加されていますので，ご興味のある会員の方は，是非ホームページよりお申込みください。

最後になりますが，法人化に伴い会計年度終了後 3 か月以内に総会を招集する必要がございます。日程が決まり次第，リモート会議の形でご案内いたしますので，評議員の先生方には是非ご参加いただきますようお願い申し上げます。

会員の皆様の益々のご活躍とご発展をお祈り申し上げます。

２．第 97 回大会（2025 年）のお知らせ

第 97 回大会長：嶋本　顕
公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学
大学院薬学研究科 再生医療学分野 教授

会員の皆様におかれましては，益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて，このたび日本組織培養学会 第 97 回大会を，山口東京理科大学（山口県山陽小野田市大学通 1-1-1）において 2025 年 8 月 21 日(木)・22 日(金)の 2 日間の日程で開催する運びとなりました。

第 97 回大会では「創薬・医療・基礎研究を支える培養技術の基礎と実践」をテーマとし，培養細胞を活用し生物学的イベントのメカニズム解明に焦点をあてた最先端研究，培養細胞とテクノロジーの融合による生命の理解や医療への応用に焦点をあてた最先端技術研究に加えて，動物実験代替法の必要性から，今後の創薬を支える多能性幹細胞を用いた非臨床試験に関する話題を日本動物実験代替法学会とのジョイントとしてシンポジウムで取り上げます。そして，昨今の再生医療等安全性確保法で認められている細胞培養加工の外部委託の需要の高まりなどから，日本組織培養学会が掲げる細胞培養に関する技術・知識の普及の重要性に鑑みて，日本再生医療学会とのジョイント教育セミナーを特別企画として開催いたします。両学会がそれぞれ育成する細胞培養士と臨床培養士の制度設計や講習内容，さらに細胞培養の自動化の現状についても紹介し，細胞培養の技術や人材育成の今後の在り方について，パネルディスカッションの機会を設け議論したいと考えています。

開催地の山口県山陽小野田市は，関東や関西，東海の都市部から見ればいわゆる地方の人口減少地域で，公共交通では大変不便な場所と言わざるを得ません。大会長として，ご参加の皆様にはできるだけご不便をお掛けしないよう，チャーターバス等を活用した開催計画を立てているところでございます。尚，近隣（宇部新川駅周辺）のホテルには限りがありますので，皆様各自で早めのご予約をお願いいたします。

最後になりましたが，会員の皆様，どうぞ奮ってご参加いただきますようお願い申し上げます。

３．第 97 回大会 研究奨励賞申請と発表について

教育・奨励賞担当理事：中村 和昭

第 97 回大会日本組織培養学会研究奨励賞申請についてご案内いたします。第 97 回大会におきましても，日本組織培養学会研究奨励賞の目的である「組織・細胞培養に関した研究を行う将来性ある本学会所属の研究者の研究を奨励し，本学会の活性化を図る」ため，研究奨励賞の募集を行います。

日本組織培養学会研究奨励賞は以下の申請資格を満たすキャリア形成の初期の学生・研究者を対象としております。申請資格を満たす学生・研究者の皆さまにはその受賞を目指して, 第 97 回大会でも積極的に申請していただくことを期待しています。

1. 申請資格

- 研究奨励賞応募時点で本会の会員であること。
- 審査対象大会の大会開催年の 4 月 1 日時点で大学院を修了して 10 年未満の研究者または大学院在籍中の学生であること。
- 第97回大会にて発表する研究奨励賞応募演題の筆頭学術発表者であること。
- 日本組織培養学会奨励賞（研究奨励賞を含む）を未受賞であること。
- 過去に日本組織培養学会奨励賞（研究奨励賞を含む）に応募し受賞とならなかった者が同一演題で再度応募することはできない（異なる演題（過去の演題における研究内容を発展させ別の内容を含む演題を含む）によって再度応募することは妨げない)。

2. 申請方法

申請用紙を大会ホームページよりダウンロードしてご記入ください。申請には，本学会評議員の推薦が必要です。推薦者の捺印や直筆サインは不要ですが，必ず推薦者の承諾を得てください。申請に当たり評議員がご不明な場合はお問い合わせください。申請書類を電子メール添付にて「6.問い合わせおよび申請書送付先」宛てに送付してください。書類選考の上，研究奨励賞演題としての登録可否を通知いたします。研究奨励賞演題の登録が認められた場合，大会ホームページから演題抄録の登録を行っていただきます。研究奨励賞演題の登録可否の通知は 5 月中旬を目途に行います。

3. 応募〆切

2025 年 4 月 30 日（水）

※ 研究奨励賞演題登録が認められる前に抄録登録を行わないようお願いいたします。

4. 発表形式

書類選考通過者には，大会で口頭発表を行っていただきます。今後， 第 97 回大会ホームページにて詳細をご案内いたします。

5. 受賞者の皆様へのお願い

研究奨励賞を受賞された場合，以下の学会活動へのご協力をお願いします。

(1) 会員通信へ「受賞の感想」を寄稿する。
(2) 受賞題名に関連する論文（原著または総説）を本学会機関誌（Tissue Culture Research Communication）に投稿する。

6. 問い合わせおよび申請書送付先

中村 和昭（E-mail; nakamura-kz@ncchd.go.jp）

Application and Presentation for the Young Investigator Award at the 97th Annual Meeting.

We would like to inform you about the Young Investigator Award (YIA) application process at the 97th Annual Meeting of the Japanese Tissue Culture Association (JTCA). The aim of YIA is to encourage research by promising researchers affiliated with the society who are conducting research related to tissue and cell culture and revitalizing the society.

The YIA is open to students and researchers in the early stages of their careers who meet the following application criteria. We hope students and researchers who meet the application criteria will actively apply for the award at the 97th Annual Meeting.

1. Applicants must meet the following criteria
   - Applicants must be a Japanese Tissue Culture Association member at the time of application.
   - As of April 1 of the year of the meeting, Applicants must be a researcher who has graduated from graduate school for less than 10 years or a student currently enrolled in graduate school as of April 1 of the year of the meeting.
   - Applicants must be the first author of the presentation to be presented at the 96th Annual Meeting.
   - The applicant must not have received a YIA before.
   - Those who have previously applied for YIA but were not awarded the award may not reapply with the same abstract (but may reapply with a different abstract (including an abstract that expands on the research content of the previous abstract and includes other content)).

2. Application

   Please download the application form from the convention website and complete the required information. The application requires the recommendation of a JTCA council member. No seal or signature of the recommender is required, but the recommender's approval is required. If you are unsure about JTCA council members, please contact us. Please attach the application materials to an email to "6. Application and Inquiries. If your abstract is accepted as a YIA candidate, you will be asked to submit it via the Annual Meeting website.

   Acceptance or rejection as a YIA candidate abstract will be notified by mid-May.

3. Deadline for application.

   <u>April 30, 2025</u>

   Please do NOT submit to online registration BEFORE the approval of the application by the YIA office.

4. Presentation

Candidates who pass the application screening process will be invited to give oral presentations at the Annual meeting. Details will be announced on the 97th Annual Meeting website in the future.

5. If awarded, the awardee must take the following actions.

(1) To submit the comments of impression for getting the Young Investigator Award to the Newsletter of the Japanese Tissue Culture Association soon after the Annual Meeting,

(2) To submit the paper (regular articles or review articles) to "Tissue Culture Research Communications" by the consistent title applied to the Young Investigator Award after the Annual Meeting.

6. Contact for applications and inquiries.

Kazuaki Nakamura, Ph.D.　(E-mail: Nakamura-kz@ncchd.go.jp)

４．第 97 回大会 English Presentation Award 申請と発表について

教育・奨励賞担当理事：中村 和昭

日本組織培養学会では，会員の国際的発信能力の増進を奨励し本学会の活性化を図ることを目的に，English Presentation Award（EPA）の授与を行っています。第 97 回大会においても EPA 対象演題を募集します。国際学会での発表を想定した腕試しにもつながると思います。学会員の皆様の積極的な応募を期待します。

1. 申請資格

- EPA 応募時点で本会の会員であること
- 筆頭発表者であって，要旨記述ならびに口頭発表を英語で行う英語を第一言語としない者
- 第 97 回大会の会計年度の 4 月 1 日時点で博士取得後 5 年未満の研究者または大学もしくは大学院在学中の学生
- 過去の受賞者は再度応募できない

2. 申請方法

演題登録時に EPA を選択し，英語で記述した要旨と履歴書（様式 1）を提出する。

3. 応募〆切

一般演題登録の期限と同様

4. 発表形式

英語による口頭発表ならびに質疑応答

5. 問い合わせ先
中村 和昭　（E-mail; nakamura-kz@ncchd.go.jp）

Application and Presentation for the English Presentation Award at the 96th Annual Meeting

The Japanese Tissue Culture Association (JTCA) awards the English Presentation Award (EPA) to encourage its members to improve their international communication skills and to revitalize the JTCA. We are also accepting applications for the EPA at the 97th Annual Meeting. We hope this will be a good opportunity for you to test your skills for international conference presentations. We look forward to receiving many applications from JTCA members.

1. Applicants must meet the following criteria
   - Must be a member of the society at the time of application for the EPA.
   - The first author who is not a native English speaker and will give an oral presentation in English as an EPA candidate at the meeting.
   - Researchers who have been in the position of a researcher for less than five years since obtaining their doctorate or students enrolled in a university or graduate school as of 1st April of the fiscal year of the 97th Annual Meeting.
   - Past winners are not eligible to apply again.

2. Application
   When registering your presentation, select EPA and submit an abstract and CV (Form 1) written in English.

3. Deadline for application.
   It is the same as the deadline for general abstract submission.

4. Presentation
   Oral presentation and Qs and As in English

5. Contact for inquiries.
   Kazuaki Nakamura, Ph.D.　(E-mail: Nakamura-kz@ncchd.go.jp)

５．年会費値上げについて

代表理事：藤井 万紀子

つくば国際会議場で 2024 年 6 月 28 日に開催された一般社団法人日本組織培養学会総会において，年会費値上げについての経緯を学会会員の皆様にご説明し，ご審議いただきました。

年会費値上げ検討は，以下の３つの理由に基づき，理事会から提案させていただきました。

1. 昨今の世界情勢や国内情勢による円安と物価上昇による支出額の増加
2. 運営事務処理の簡略化（年会費のクレジットカード支払いの導入など）に伴う学会支援機構へのシステム使用料の必要性
3. 法人化に伴う安定した財務収支バランスの確保の必要性

2024 年度までの年会員は以下のとおりです。

・正会員　：　6,000 円
・学生会員：　3,000 円　（正会員の半額）
・賛助会員：　30,000 円　（1 口）

総会では，会員の皆様に 2025 年度からの年会費変更をご承認いただきました。皆様のご理解に心より深く感謝申し上げます。

・正会員　：　8,000 円
・学生会員：　4,000 円　（正会員の半額）
・賛助会員：　30,000 円　（1 口）

なお，賛助会員につきましては，新たにシルバー賛助会員とゴールド賛助会員を創設致します。ご興味のある企業様におかれましは，ぜひご検討ください。

シルバー賛助会員　50,000 円（1 口）

・ 大会の参加証 2 枚
・ 大会の展示ブース出展費 5%値引き
・ 細胞培養基盤技術コース講習会でのパンフレット配布

ゴールド賛助会員　70,000 円（1 口）

・ 大会の参加証 4 枚
・ 大会の展示ブース出展費 10%値引き
・ 細胞培養基盤技術コース講習会でのパンフレット配布

苦渋の決断ではございましたが，歴史ある日本組織培養学会の活動を今後も充実発展させるため，会員の皆様のご協力とお力添えを心よりお願い申し上げます。

６．委員会報告

１）総務委員会報告

総務委員会委員長：森　一憲

- 総務委員の交代

　総務委員会の選任方法に従い，委員長が正会員の中から候補を選出し，総務委員会の承認を得たため，以下のとおり総務委員１名を交代した。なお，任期途中の交代であるため，当該委員の任期は前任者の残任期間とする。

- 変更前（五十音順・敬称略）
  浅香　　勲　（京都大学 iPS 細胞研究所）
  小原 有弘　（医薬基盤・健康・栄養研究所）
  森　　一憲　（委員長）（昭和大学）
  山崎 泰助　（河野臨床医学研究所）
  山本 直樹　（藤田医科大学）

- 変更後（五十音順・敬称略）
  小原 有弘　（医薬基盤・健康・栄養研究所）
  細見 晃司　（大阪公立大学）
  森　　一憲　（委員長）（昭和大学）
  山崎 泰助　（河野臨床医学研究所）
  山本 直樹　（藤田医科大学）

2）細胞培養基盤教育委員会（細胞培養基盤技術コース開催予定）

教育・学術担当理事／委員長：片岡　健

日頃より日本組織培養学会細胞培養基盤教育委員会の活動へのご理解・ご協力をいただき感謝しております。

2024 年度より，細胞培養基盤教育委員会と細胞培養講習会運営委員会が協働して細胞培養基盤技術コースの開催を進めています。特に基盤技術コースの開催に関する規定が，細胞培養講習会運営委員会委員長の嶋本顕先生のご尽力で整備されました。今後も両委員会で協議しながら，細胞培養基盤技術コースの効率的な開催を進める方針です。

今年度は以下の通り，細胞培養基盤技術コースを開催しました（一部予定を含む）。また開催拠点を増やすべく複数の施設に新たに開催を打診しており，3 月中には来年度の開催予定をお知らせいたします。

【コースⅠ】
2024 年 9 月 25 日～26 日（アズワン殿町ラボ）
2024 年 10 月 12 日～13 日（日本歯科大学）
2024 年 11 月 6 日～7 日（アズワン殿町ラボ）
2024 年 12 月 7 日～8 日（岐阜医療科学大学）
2025 年 2 月 1 日～2 日（広島大学）

【コースⅡ】
2025 年 2 月 15 日～16 日（岐阜医療科学大学）

【コースⅢ】
2025 年 4 月 19 日（Nakanoshima Qross）

また近年の研究関連消耗品や講師宿泊費等の経費高騰と細胞培養基盤技術コースの採算を鑑みて，コース参加費の値上げを検討中です。3 月中に取りまとめて，理事会で議論する予定です。

今後とも会員の皆様のご協力をお願い申し上げます。ご質問などございましたら，片岡（kenk@ous.ac.jp）までお問い合わせください。